

福岡県の特別支援教育の現状

福岡県特別支援教育研究連盟
会長 緒方 直彦
北九州市立門司総合特別支援学校 校長

I 特別支援学校等の設置状況（令和4年5月1日現在）

(1) 特別支援学校の概要

区分	学校数	幼稚部		小学部		中学部		高等部				合計	
		学級数	幼児数	学級数	児童数	学級数	生徒数	本科		専攻科		学級数	幼児児童生徒数
								学級数	生徒数	学級数	生徒数		
視覚障がい	4	3	9	9	14	9	15	6	21	12	26	39	85
聴覚障がい	5	17	57	36	91	19	51	7	34	3	8	82	241
知的障がい	24			471	2,115	259	1,156	343	2,102			1,073	5,373
肢体不自由	10			168	435	93	229	85	199			346	863
病弱	6			9	13	18	42	11	24			38	79
総計	38 <small>※併設校を含む</small>	20	66	693	2,668	398	1,493	452	2,380	15	34	1,578	6,641

※ 国立及び福岡市、北九州市の2政令市を含む。

(2) 特別支援学級の概要

障がい種	学級数			児童生徒数		
	小学校	中学校	総計	小学校	中学校	総計
知的障がい	1,280	541	1,821	7,142	2,839	9,981
病弱	39	16	55	72	36	108
弱視	12	1	13	15	1	16
難聴	31	19	50	55	29	84
言語障がい	1	0	1	2	0	2
情緒障がい	987	401	1,388	5,511	2,125	7,636
肢体不自由	62	26	88	93	38	131
合計	2,412	1,004	3,416	12,890	5,068	17,958

※ 国立及び福岡市、北九州市の2政令市を含む。

2 特別支援教育に関する施策（福岡県教育施策実施計画より）

福岡県特別支援教育推進プラン（第2期）の5つの柱

- 柱1 連続性のある多様な学びの場における教育の充実
- 柱2 就学前における早期からの相談・支援の充実
- 柱3 卒業後の自立と社会参加を目指した支援の充実
- 柱4 安全・安心かつ効果的に学べる教育環境の整備
- 柱5 専門性の向上と支援体制の整備・充実

福岡県特別支援教育推進プラン（第2期）に掲げた5つの柱に基づき、インクルーシブ教育システム構築のため特別支援教育を推進し、障がいのある子供の自立と社会参加を目指します。

5つの柱 主な事業

- 柱1 「ふくおか就学サポートノート」の活用 ・高等学校等への特別支援教育支援員の配置 ・高等学校等における通級指導の実施
・特別支援学校へのSC,SSWや理学療法士等の外部人材の配置 ・特別支援学校における「ケア・トランポリン」を活用した授業等の実施
- 柱2 ・専門家の派遣による巡回相談の実施 ・幼児期からの就学相談の実施
- 柱3 ・現場実習の実施 ・清掃検定の実施 ・分身ロボットを活用したテレワーク実習等の実施
- 柱4 ・県立特別支援学校の3校新設 ・医療的ケア対応の看護職員の配置 ・医療的ケアガイドラインの周知

3 研究会の活動状況

(1) 組織

福岡県特別支援教育研究連盟では、特別支援学校（主に、知的障害の特別支援学校）・特別支援学級設置校の校長・教頭・教諭等を会員として、福岡県全体や県内4地区での研究大会を中心に活動を行っている。

本県研究連盟の組織 8つの地域がありそれぞれ4つの地区の研究連盟に所属している。

筑豊地区 特別支援教育研究連盟	<筑豊地区> <北九州地区>	飯塚市,田川市,嘉麻市,嘉穂郡,田川郡 直方市,中間市,宮若市,遠賀郡,鞍手郡
筑後地区 特別支援教育研究連盟	<北筑後地区> <南筑後地区>	久留米市,小郡市,うきは市,朝倉市,朝倉郡,三井郡 大牟田市,柳川市,八女市,筑後市,大川市,みやま市 三潴郡,八女郡
北九州地区 特別支援教育研究連盟	<北九州市> <京築地区>	(政令指定都市) 行橋市,豊前市,京都郡,築上郡
福岡地区 特別支援教育研究連盟	<福岡市> <福岡地区>	(政令指定都市) 筑紫野市,春日市,大野城市,宗像市,太宰府市,古賀市 福津市,糸島市,那珂川市,糟屋郡

(2) 昨年度の活動

昨年度の福岡県研究大会は筑後地区大会と同時開催であり、研究主題を「多様性を認め合う特別支援教育の充実～一人一人の教育的ニーズに応じた教育実践を通して～」として開催した。新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、集合型ではなく全日程をオンライン開催として、4つの分科会構成で7つの実践報告を行い、約200名が参加した。また講演には、国立大学法人 福岡教育大学大学院教授 牛島 玲 先生を講師として招聘し、学校現場の経験を踏まえた「多様性」や特別支援教育の今後の実践の在り方など深い学びにつながった。

(3) 今年度の活動

今年度は、九州地区特別支援教育連盟研究大会と福岡県特別支援教育研究連盟研究大会を同時開催とする。研究主題を「多様な子供たちの可能性を広げる特別支援教育～教育的ニーズに応じた教育実践を通して～」として誌上報告を行い、Web上でも実践報告を掲載する予定である。

「第64回福岡県特別支援教育研究連盟研究大会」

- 大会主題 「多様な子供たちの可能性を広げる特別支援教育
～教育的ニーズに応じた教育実践を通して～」
- 期 日 令和5年12月1日（金）※誌上開催
- ホームページ <https://www.kita9.ed.jp/kyutokuren>

4 課題

近年は感染症対策として、令和2・3年度は研究大会の中止、令和4年度はオンライン開催と、集合型の研究大会を実施していない。今後は以前の集合型に戻すか、県内全域から集まる不便さを考慮して集合型とオンライン型とのハイブリット型にするか、または、オンライン型にするかの選択肢がある。ハイブリット型、オンライン型にすると、メリットとしてより多くの会員が研究大会に参加することができる。一方デメリットとしてはハイブリット型を選択すると、配信や開催までの段取り、オペレーターとの契約など多くの経費がかかるため、運営費の見直し(予算案等)をする必要がある。